ガザ

新「対テロ戦争」の

最前線

11月6日(月)

17時00分～18時30分

東京大学駒場キャンパス

18号館4階

コラボレーションルーム1

オンライン同時配信有

対面参加・オンライン参加共に

要事前登録

▶11月5日21時まで受付◀

申込はこちら

２０２３年１０月７日の奇襲を受けたイスラエルが、ガザを壊滅的な状況まで追い込もうとする目的は、ハマース掃討だけなのか。その根底に「住民の自主的退避＝ガザ地区の切り離し」があると見ると、現在に至るまでの政策や軍事行動が、一枚の絵図のように繋がってくる。

ガザ地区とは何か、２０２３・１０・７はイスラエルの２００１・９・１１なのか、「対テロ戦争」といかに関連付けられるのか。７０回以上のパレスチナ滞在、２０年以上の取材経験を持つジャーナリストを囲んで考えたい。

敷居は低く、高い知見をめざす談論の場とすべく、学内外を問わず、中東あるいは政治学その他の切り口のある方も、端的に関心のみある方も、広くご参加ください。

報告　**小田切 拓** (ODAGIRI Hiromu)

ジャーナリスト。「ガザ――人間の壊し方」『世界』岩波書店、2004年、「ハマスの6ヶ月――民主主義が瓦解する」『世界』2006年、「誰が、得をするのか――「ガザ戦争」長期化の理由」『世界』2014年、今回の事態を予見した「ダヒヤ・ドクトリン」『現代思想』青土社、2014年など、パレスチナと国際援助や「対テロ戦争」との関連性等を軸とする論考多数。

コメント　**鶴見 太郎** (TSURUMI Taro)

東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻准教授。専門はロシア・ユダヤ史、パレスチナ／イスラエル、エスニシティ・ナショナリズム、歴史社会学。『イスラエルの起源―ロシア・ユダヤ人が作った国』（講談社・選書メチエ、2020年）ほか。

司会　**伊達聖伸**(DATE Kiyonobu)　趣旨説明　**斎藤かぐみ**(SAITO Kagumi)

Global Studies Initiative
The University of Tokyo

主催　東京大学GSI　キャラバン研究プロジェクト
「「小国」の経験から普遍を問いなおす」(代表:伊達聖伸)
共催　東京大学IAGS
お問い合わせ　斎藤かぐみ（kagumifsn@gmail.com）